

2022 年度第 2 回情報教育研究委員会情報専門教育分科会
メタバース・VR 教育利活用小委員会議事概要

I. 日 時：令和 4 年 12 月 10 日（土）17：00～19：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：大原委員長、北原委員、矢野委員、小田委員、斎藤アドバイザー、光井アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

PBL チームのマッチングを行うメタバース環境と利用者のルール・課題について、SDGs サイバーフォーラムコモンズの設計メモが提示され検討を進めた。

1. マッチングの仕方・環境・合意事項などの整理

- ・ マッチングの仕方は、プラットフォームに学生チームが SDGs の課題・メンバー・検討姿勢・運営方法などの情報を、文字・画像・動画で作成して掲載する。その上で、企業等の関係者が情報を閲覧し、興味があれば連絡できるようにする。また、学生チームと企業チームが自己紹介と共創したい内容の確認をアバターの利用などでコミュニケーションが図れる環境を準備する。
- ・ マッチング環境は、SNS 型メタバースで構築し、HMD は利用せず、レイアウトは大部屋運営を基本として小部屋で運営追加を検討する。初期の連絡方法は工夫の必要があるが、常時監視する管理者は置かないことにする。
- ・ メタバース環境の合意事項など、個人情報プラットフォーム上には掲載しない、確認情報は関係者以外に漏らさない、関係者以外との共創関係がないこと、キャリアアップ目的の行動は慎むこと、リクルートの一環利用は控えること、成りすましなど情報掲載に偽りのないこと、個人的な情報は求めないようにすることなどがあげられた。
- ・ 共創活動を行う環境は、学生チームと企業チーム間で合意形成し、費用や運営は大学組織と企業関係組織との間で取り決めておく。
- ・ 共創活動を行うルールは、関係者間で秘密保持の契約や誓約書、申し合わせなどを検討しておく。そのためのガイドライン策定を検討する。

2. SDGs サイバーフォーラムコモンズ設計の課題・意見について

- ・ マッチングの流れは、学生チームが個人情報を除き検討している主張を掲示板的に掲載し、企業チームが確認して、共創の希望があればチーム間でコミュニケーションを進める。その際に、個人情報は段階的に開示することで学生を守る形で信頼関係や環境の構築を検討する必要がある。
- ・ 企業から課題・目標を提示する方法も考えられるが、大学教育の一環とするため戦術的に大学からの発信とすることにし、学生が情報等を提示して相談することになっている。学生が自ら学びを創っていくことを想定している。
- ・ 共創活動の期限は、秘密保持の関係もあり在学中でのアプローチ・活動とする。
- ・ メタバース空間の利用に関しては、学生の掲載情報を仮想空間美術館イメージで掲載（展示）して、例えば、近づいたら動画が再生されるなどの工夫が考えられる。また、時間的な制約はあるがアバターで展示の前に待機していることが望ましい。
- ・ 秘密保持の補償などの問題が考えられることから、大学または企業などに所属している立場での参加を基本とする。

- ・ メタバースの空間設定は、テーブルをレイアウトすることで、テーブル単位に分かれて座る運営が考えられ、話す範囲や許可的な問題は制限がかけられるため仕様段階での検討になる。リアルに構築する必要はなく、参加者がワクワク感じられる雰囲気が必要で、テーマ別に個室の設定も一つの方法と考えられる。また、大部屋がステージの想定となり、小部屋が検討の想定とする両方の場所があった方が良さそうだが、予算の関係で運営方法の検討を確認した。
- ・ 企業の協力を得るためのポイントとして、学生は複数社との関係を持たないことにし、企業側は他社や地域との協同の可能性を持たせることで確認した。
- ・ 学生が参加する動機付けは、例えば、自らイノベーション人材としてノベーションを起こす可能性に関われること、可視化された学習歴オープンバッジの受領などが考えられる。学修意欲のある学生の副専攻制度での取組みのため、パイロット段階では関心のある大学に的を絞る必要がある。

V. 今後のスケジュール

次回の小委員会は、1月14日（土）10：00～12：00で開催し、PBLチームのマッチングを行うメタバース環境と利用者のルール・課題について継続研究することになっている。